

資源環境と人類 2025 シンポジウム



明治大学黒曜石研究センター

Center for obsidian and lithic studies

草創期石器群から 人類行動の多様性と広域性に迫る



岡谷丸山遺跡出土の神津島産黒曜石製
削器（尖頭器から変形）

●○ 参加申し込み ●○

「明治大学黒曜石研究センター」のホームページに入り、「イベント一覧」→「2025 年度」→「資源環境と人類シンポジウム 2025」→「参加申込」Google フォームのリンクから登録してください(1 月 18 日まで)。

●○ 連絡先 ●○

〒101-0064

東京都千代田区神田猿樂町 1-6-3

明治大学猿樂町第 3 校舎

Tel 03-3296-4424

Email:meiji.cols@gmail.com

明治大学黒曜石研究センター

2026 年 1 月 24 日 (土)・25 日 (日)

会場：明治大学駿河台キャンパス・グローバルフロント

【開催の趣旨】

岡谷丸山遺跡は、諏訪湖西端にある釜口水門から約 600 m 北東の微高地に立地する。本遺跡は、2002 年に長さ 23 cm に達する大形の矢柄研磨器が、一対の状況で出土したことにより広く注目を集めた。

黒曜石研究センター (COLS) では、2021 年から橋詰潤 (新潟県立歴史博物館・元 COLS)、中村由克、池谷信之を中心として、岡谷市教育委員会の協力のもと、出土遺物の中から草創期石器群を抽出し、実測図の作成を進めるとともに、石器属性の観察を行い、黒曜石を含む石材産地の分析を実施してきた。

その結果、石材には神津島産黒曜石のほか、富士川系ホルンフェルス、ガラス質黒色安山岩 (箱根産?)、白峰サヌカイト (香川県)、下呂石、透閃石岩、珪質頁岩 (新潟系) など、多様な石材が広域から搬入されていたことが明らかとなった。また石器の器種および形態については、新潟県小瀬ヶ沢洞穴、静岡県葛原沢第 IV 遺跡・大鹿窪遺跡、長野県柳又 II 遺跡など、各地域の草創期遺跡との間に類似性が認められた。

2025 年 3 月には、これらの成果を集成した岡谷丸山遺跡の草創期に関する報告書を刊行した。シンポジウムでは、本遺跡の形成過程と人類行動を中心課題に据え、気候環境、遺跡立地、個別石器の機能、各地石器群との影響関係、石材の広域獲得などの観点から多角的な検討を加えていく。



プログラム

明治大学黒曜石研究センター

資源環境と人類 2025 シンポジウム 2026 年 1 月 24 日 (土)・25 日 (日)

「草創期石器群から人類行動の多様性と広域性に迫る」

1 月 24 日 (土) 会場：グローバルフロント 2F 4021 教室

開会挨拶		10:30 ~ 10:35
主旨説明	シンポジウムの趣旨と岡谷丸山遺跡	池谷信之 10:35 ~ 10:50
普及講演	縄文文化の幕開け：草創期の多様性と広域展開	堤 隆 10:50 ~ 11:50
発表 1	縄文時代初頭の気候変動と石器の変化 〈昼休憩〉	三好元樹 11:50 ~ 12:20
基調講演 1	岡谷丸山遺跡出土石器が提起する縄文時代草創期石器群の諸問題	橋詰 潤 13:20 ~ 14:40
発表 2	草創期神津島産黒曜石製「両面体石器群」のゆくえ 〈休憩〉	池谷信之 14:40 ~ 15:10
発表 3	岡谷丸山遺跡と大鹿窪遺跡の石器石材—広域移動する石材—	中村由克 15:30 ~ 16:10
発表 4	佐久市寺畑遺跡の石器群と黒曜石原産地	藤森英二 16:10 ~ 16:40
発表 5	初期定住化と富士宮市大鹿窪遺跡	深澤麻衣 16:40 ~ 17:10

1 月 25 日 (日) 会場：グローバルフロント グローバルホール

発表 6	前田耕地遺跡の形成過程と生業・居住形態	尾田識好 10:30 ~ 11:00
発表 7	矢柄研磨器に関する諸問題—近畿・中部地方を中心として—	小栗康寛 11:00 ~ 11:30
発表 8	岡谷丸山遺跡出土の局部磨製石斧の時間的な位置づけと地域間対比 〈昼休憩〉	橋本勝雄 11:30 ~ 12:00
発表 9	三次元データに基づく岡谷丸山遺跡出土の矢柄研磨器の検討	永瀬史人 13:00 ~ 13:30 山田武史
基調講演 2	ヤングドライアス期を考える 〈休憩〉	藤山龍造 13:30 ~ 14:30 14:30 ~ 14:50
討論・講評	司会：堤	14:50 ~ 16:10
閉会挨拶		16:10 ~ 16:15

※プログラムのタイトル・順番が変更になる場合があります。



岡谷丸山遺跡出土の矢柄研磨器